

# 第1章 山形県の姿

## 1. 位置と地勢

### ■ 位置 ■

山形県は本州の東北部に位置し、県の西北部は日本海に面しています。北は秋田県、東は宮城県、南は福島県、西南は新潟県にそれぞれ接し、東西約97km、南北約164kmで南北に長く、総面積は9,323,46km<sup>2</sup>で全国第9位の広さとなっています。

### ■ 地勢 ■

本県の東部を縦貫する奥羽山脈と県の中央を南北に通る出羽山地との間には、置賜、村山、最上の3盆地、日本海側には庄内平野が広がり、これら盆地と平野を最上川が貫流して日本海に注いでいます。

奥羽山脈は御所山(船形山)、蔵王山、吾妻山などの火山を伴い、標高1,000m以上の山が多く分布しています。ここを源とする最上川の支流はいずれも短く、傾斜が急なために、各盆地に扇状地を作っています。

出羽山地は鳥海山、月山など山の姿に優れた山々があり、その南には朝日山塊、飯豊山塊が続いています。

本県の総面積に対する山地の割合は実に7割を占めています。



## 2. 沿革

県内には約2万年前の無土器時代から人類が居住し、約50箇所の遺跡が確認されています。また、縄文・弥生時代の遺跡が約2,300箇所あります。

西暦712年(和銅5年)、はじめて「出羽国」が置かれ、同年さらに陸奥国から最上、置賜の2群が出羽国に属されました。その後、山寺立石寺の開山、修験の山・出羽三山が開かれ、鎌倉時代には幕府の勢力下に置かれたものと考えられています。

南北朝時代の1,356年(延文元年)、斯波兼頼が山形に入った頃、庄内には武藤氏が、置賜には伊達氏がおり、それぞれその地を領していました。山形を治めていた最上氏の勢力拡張に伴い、一時期は庄内・最上の両地方も最上氏の手に入り、1,601年(慶長6年)、上杉氏が米沢に入りました。最上氏が没した後、山形は江戸時代幕末までに領主が10回あまり交代しています。

明治に入り、廃藩置県の後、明治9年に現在の山形県の形になりました。立県当時は県下に355町1,221村が置かれていましたが、明治22年の市制・町村制の施行、昭和の合併、平成17年の庄内地域における合併を経て、平成17年11月1日から現在の13市19町3村となっています。